內鄉村報

天法令則ニ從順ナルベシ

天祖祭制定の議

大內民惠

これは八月八日飯坂に開催せられたる縣下共濟委員大會に、記者が提出したる、天祖節制定方を其筋に請願の件の理由說明を補綴略述したるものである。

天祖祭とは、まことに恐れ多い次第ではあるが記者の命名である。縣下共濟委員大會には、天祖節として提案したのであつたが種々研究の結果、天祖祭と改めたのである。

抑々我大日本帝國の建國の大本、國體の淵源、敬神の大義は

天祖、天照大神の、天孫瓊々杵尊に下し給へる神勅と三種の神器に由來する事は、こゝに改めて申す迄もない事である。かくて建國以來悠々三千載、皇統連綿、君民一體世界無比の國體を顯現して今日の偉大をなしたものである。されば我國に於ては天照大神を皇大神宮に奉齋しまつり帝國の

宗廟として上御一人より下萬民に到る迄、國を擧げて之を尊崇し奉り、之が祭祀は、二月の祈年祭五月十月の神御衣祭、六月十二月の月並祭、十月の神嘗祭、十一月の新嘗祭、式年の御還宮祭、臨時の奉幣祭を大祭とし、日別朝夕大御饌祭、歲旦祭、元始祭、紀元節祭、風日祀祭、天長節祭を中祭とし、其他數々の小祭を行はせらるゝといふ樣に、莊嚴鄭重の極を致して居るのである。又一面我國家の

祝祭日を數ふるに、四方拜より大正天皇祭に到るまで十二日を算し、內四方拜、紀元節、天長節、明治節を四大節と稱し、特に全國に於て其式典を擧げ祝祭を行ふ事になつて居るこゝに我等は、上述せる皇大神宮の祭祀と、國家の祝祭日に就いて、謹て慮るに皇大神宮の大中小祭は、たゞに皇大神宮に於ける祭祀の觀あつて、一般國民中之を知るものは、關係者以外始と皆無ともいふべく、次に祝祭日に於ては、四方拜元始祭、春秋皇靈祭、神嘗祭新嘗祭等　天祖大神の御神德を仰ぐ事は勿論ではあるが、それ〴〵其祝祭に相當する由來を知り、其に因める祝祭を行ふに過ぎないて、之を要するに、全國民を擧げて、一齊に

天祖　天照大神を祭祀する日はないといふ事になるのである。かくては畏くも、建國の神勅を發せられたる　御本體に對し奉りて、まことに恐れ多い次第ではないかと、恐察し奉るのである。殊に國を擧げて

建國の精神に還れと絕叫せられつゝある現代に於て、尙一層痛切に考へさせらるゝのである。

こゝに於て記者の念願は天祖の御高德を仰ぎ、建國の精神を涵養する爲に、適當の日を撰びて（現に皇大神宮に於て行はるる大祭中氣候時期等を參酌して全國民一齊に祝祭するに最も適する撰定を望む）

天祖祭なる大祭日を制定し四大節に一節を加へて五大節として、全國之が式典を擧げて祝祭する樣にいたしたいと思ふのである幸に我縣下共濟委員大會に於ては、萬場一致之を可決して、其筋に請願する事になつた事は、眞に國家の爲に欣快とし、不肖としては光榮の至りとするものである。されとかゝる事業は愈々之が實現を見る迄には相當の順序方法を要する事なれば、其筋に於ても我等の提案を

嘉納して、それ〴〵の手續きをとらるゝべく、我等に於ても、請願其他の方法によつて、之が促進を期すべきものと思はるゝのである。此意味に於て記者は、一般讀者諸君に對して此國家的事業に向つて贊同協力せられん事を祈願する次第である。

因みに一言するが、明治初年に五節句を廢して、國家の祝祭日を制定したのであるが、上巳端午七夕等の諸節句は、今尙一般に行はれ釋尊の降誕會、クリスマス等、亦殆と全國に行はるゝ事は情操の敎育、宗敎の敎育等から見て、大に望ましき事と思はれる。それに幸に、我等の念願が叶つて天祖祭の制定を見るとすれば、以上の祝祭日を

超越して、全國津々浦々に到る迄、御神樂を奏するは勿論、天祖に因める催物飾物さては贈答等も之に伴はせ、天祖の御高德を仰ぐと共に、建國の大精神を涵養する國民敎育の上に、一大効果あらしむる樣に、いたしたいと考へらるゝのである。

災害防止に就きて

磐城炭礦々務課長　田寺茂實

七月二日頃總館に開催せられた安全委員會に於ける講演の概要

災害防止と申しますと皆さんは又か又あの話かと思はれる程今迄に何回となく聞かされもし見もしてお居での事で別に目新しい事ではありませんが然し依然として未だに相當の變災を繰返して居るのであります。丁度仁丹の廣告が新聞一面に時々忘れかけた頃に廣告になる樣に良く知つて居ることではあつても時々思ひ出して又氣分を新くし皆さんの注意を喚起することは決して無駄なことではないかと思ひます。

我が磐城炭礦に於ても町田竪坑

（以下二面へ）

あり、同十四日には川俣に用事があり、其間の數日間歸宅して再び出直すは馬鹿々々しくもあるので此時こそと、年來の希望を果す爲に民衆的溫泉の變裝を覺破し能はざるかと、心窃かに喜び、イヤニおらあハア磐城炭山の

礦夫でがすといへば、そうですか、私の叔母も磐城に居るの

內鄉村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村內公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村共濟事業の徹底を期す。
四、村內の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大內一家の事業にして、其の社說は子孫に對する遺言を兼ぬるものなり。

首になつたが、幸ひ婿は先山、娘は選炭婦、長男は後山、二男は雜夫、婆々アは飯焚きといふ工合に、一家駄目なく働いて居ら

毎月一回一日發行

本紙定價一部金五錢一ケ年郵稅共金四十八錢
發行所　福島縣石城郡內郷村宮字宮添二　內鄉村報社
編輯發行兼印刷人　右仝所　坂巻仙藏八四二〇
印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九　大內民惠
株式會社平活版所

一面よりつゝくの大火災とか高坂の大落盤とか數へ上げれば大小數々ありあす。又全國的にも今尚一度に數十人數百人の死傷者を出す災害は絶えないのであります。安全運動が此れ程までに盛んになつた今日實に歎かはしいことではありませんか。

次に災害の統計を取つて見ましたが第一表は全國の炭礦と我が磐城炭礦の變災による鑛夫一千人に當り死亡者數の最近八ケ年の年度別の比較表で大体數字は似て居まして四人前後となつてゐますから磐城炭礦としても一年間に十二三名の死者があるのが普通と云ふことになります。第二表は全國炭礦及

田寺礦務課長

當社の變災による死傷者率の年度別比較表で大体に一年間の内に二人について一人即ち半分の人が一度怪我をすることになつてゐます第三表は昭和七年度の當社の變災原因別死傷者數を示したもので今更ながら落盤及炭車に依る災害が大多數を占めて居ること、而して本人の不注意に依る者が大部分であることに驚かざれます。大体に於て逐年漸減の傾向にはありますが今一歩進んで注意すれば災害は激減するのではないかと痛感されます。

私が昨年殿坑々内で勤務中當日は出炭デーで而もレコードを作ると云ふので終日現場に詰め一函でも多く出炭し様と思つて其の日も終り近き午後五時過ぎ可なり疲勞して居る折柄捲立の實車捲揚の爲に實車二函の向函が下つて來たので自分で連結なすべくピンを入れた刹那兩炭車にさつしり体を挟まれてしまつた事がありました幸に向函が靜かに下げられたので一命は取止めましたが、自分の不注意の爲前後の考も無く全く一局部にのみ氣を取られた爲であります。全く怪我とは我を怪むと書いてある様に自分でもどうして其んなことをしたかと不思議に思ふ様な時に怪我をするものです。又此れは誰も良く經驗される事ですが坑内切羽巡回發破着火裝置直後の切羽に飛び込まんとして危く助かつた事がありました。此れは其の切羽に行く道が多い爲全部に見限りが無かつた爲で災害は一人や二人が注意しても其の効果は少く全部の人が注意して始めて其の目的を達せられるのであります是處にも此の上に掲げてある共存共榮と云ふことが云はれるのです

最後に一言付け加へて置きます

「三々九度」「何事三度」等々「三つ」と云ふ事が云はれてまして時代にも腹胸頭の三時代といふて昔武士が良く切腹した時代が腹で仕事をした時代。何事も我が胸中にありと云つた胸の時代。それから何でも頭で來いと云つて巧者振つた頭の時代も過ぎて現在は又腹の時代に歸つたのだと云はれてゐます。其處で私共は災害を防止するにも「注意健康協力」の三つをモットーとして今日より理屈抜きに事故を無くして見せると腹を決めて大いに努力し様ではありませんか。

東京　角地藤太郎

博士達己が子供を赤くして警察・沙汰で目だまを行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遠あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

矢野恒太
服部宇之吉 序　大内民惠 著
教育制度改革概論
（四六版二一一頁　定價五十錢　郵税六錢）

磐炭殉職者精靈追悼會

磐城炭礦に於ては、例年一同受付係、贈物係、準備係の通り來る三日（當七月十等それ〳〵勞務係員が之を

のつけ方については見方によつていろ〳〵異見があると思はれるが、情緒的方面仕事の方面、其他いろ〳〵

八月二十日磐炭競技部では、日大選手を迎へて、金坂グランドに於て競技を行つた。會川監督より其成績

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打タレ申候云々。

發行所　日本評論社　東京丸ノ内昭和ビル
取次所　内郷村報社

副業調査會設立

一般窮民を救助するに當りて、急を要するものは別として、一時金品を給與するよりは、よしんば收入は細くとも、一つの職業を與へる事が、より良き方法であるといふ見地から、八月二十四日本村縣共濟常務委員及有志家が役場に會合してそれ〳〵協議の結果、取り敢へず副業調査會を設立する事に決し、左の通り會則を定め、縣當局に向つて副業講習會開催の補助を申請し、其半額は村共濟會より支出する事にした。

第一條本會は內郷村副業調査會と稱す。第二條本會は各種の副業を調査し廣く授産するを以て目的とす。第三條本會は本村縣共濟委員及一般有志を以て組織す第四條本會の事務所は內郷村役場內に置く。第五條本會に左の役員を置く。會長一名、副會長一名、專務理事二名、理事若干名、書記一名、第六條本會の維持費は會員の負擔とす。其の役員には會長沼田濱之助、副會長大內民惠、常務理事田中宇一郎、草野三千雄、理事山崎辰彦、猪狩喜平治佐藤一、吉田賢吉、赤土興榮、吉田仙治、書記渡邊忠藏の諸氏就任す。

村會

八月二十一日村會開議、農村振興匡救事業資金に關係する基本金運用取消の件、村債起債の件、追加豫算の件等を協議決定し、尚本村より好間に通ずる農道路開さくの件を協議し、之を決定して委員七名を擧げて路面を調査する事とした。尚ほ草野村議は廣瀬、永井、薗部三村議の贊成を得て村是調査會を設立し以て本村將來の爲善處せられん事を望む、各大字に一ヶ處以上の掲示場を設置し以て村告示の徹底を期せられん事望むの二案を提議し、前案は保留、後案は決定された。

綴局長

四家又一氏八月二日綴郵便局長に任命せらる、其德望手腕は定評あり、全村民滿足す。

本紙贊助金寄贈芳名

金五圓　樺太　渡部孝一

金參圓　飯坂　鈴木勝永

公傷死亡諸君を弔ふ

樺太　渡部孝一

眞の友大内氏御提案に成る弔靈堂建設に就き一言を申述べて辱知諸彦の御一考を煩はしたいと思ひます。顧みれば私の第二の故郷である御地に於て坑の内外の作業中不幸傷死の災厄に遭はれた方は磐城、入山其他を合せて實に數千といふ事になると思ひます。此等多數の犧牲者諸君は誠に御地炭界の第一線であり人柱であつたのです今日御地石炭に關係を持ち働き居らゝ諸彦は勿論遠く極北新日本である樺太の石炭業に從事して居ります私如きも一様に先人犧牲者諸君から直接間接に恩義を蒙つて居る次第であります。此度大内氏の御提案は恐らく御地炭界の諸君が常に思ひ念ふて居らゝ事柄でありますから必ずや心からなる同情の湧溢は近く如實に現れて弔靈の意を表されて、亡き先輩、友人を慰め得る事は現役である一般諸彦の本懷とせらゝ處と信じます何卒次回御地訪問の頃には立流な御堂を拜まして頂きたい。

願れば渡樺當時私も此僻陬の地に炭礦で傷死された多くの人々に對し何んとか弔靈の意を表はし一般從業員に想ひ思はせたい念願から布教所（お寺）を設け墓地を撰定して毎年干闌盆に法要を營む事にしてゐます。樺太には寺院は中々立波に經營されて居るが墓地が無いのです。島民三十萬と稱する迄に進展しながら而も所謂墳墓の地ではないといふ狀態です。之で拓地殖民の意味をなさぬと思ひまして お寺に基地を造設し私の墓も十坪ばかり設定しました。在樺既に九年第三の故郷である事を思ふ時越し方行末を顧れば感慨無量べンも鈍る次第です。今日はお盆の十三日（八月十三日）夕方から全山の人々と法要を營む事に就き大内氏の御提案を想起し無性の禿筆を運びました。

窓外に百花千草を眺めながら一兩毎に肌の寒さを覺えつゝ

1、磐城（加藤民雄）2、入山（阿久津經之）3、古河（安齊近義）
△百米自由形
1、一分十二秒八、入山（長津高男）2、磐城（富岡信吾）

磐炭殉職者精靈追悼會

磐城炭礦に於ては、例年の通り來る三日（舊七月十四日）午前九時より瑞芳寺に於て左の順序により、殉職者の追悼會を擧行する事に決し、一般の參列を希望して居る。

式次　一、遣族着席　二、僧侶着席　三、司會者挨拶（濱崎事務部長）四、讀經五、祭文讀誦（菅原礦業所長）六、遣族燒香　七、一般燒香。

尙當日は濱崎部長が委員長となり、應接係、祭壇設備及進行係、遣族應接係、同受付係、贈物係、準備係等それ〳〵勞務係員が之を分擔して萬遺漏なきを期して居る由。

◎懸賞盆踊歌

磐炭に於ては例年の通り三ヶ處に櫓を上げ、盛大に盆踊をやらせる事とし、之に唄はせる爲に、炭礦情調を帶びた盆踊り歌を懸賞募集した處、之に應じたるもの千七百十八句、豫選入選句二十五句、入賞句十六句といふ成績を示し、其入賞句は欄内掲出の通りである尙選者の聲を聞くに、等級のつけ方については見方によつていろ〳〵異見があると思はれるが、情緒的方面仕事の方面、其他いろ〳〵の點から見て、最後の決定をしたもので、一等はヘットランプといふ新語が使用され居る點と、山の第一線戰鬪員たる採炭夫の威勢のい、處が現はされてゐる點をとつたものである云々

◎共濟委員大會

八月八日九日飯坂に開催せられた縣下共濟委員大會及講習會には本村より沼田村長、大内常務委員、渡邊書記の三氏出席した。

◎磐炭と日大

八月二十日磐炭競技部では、日大選手を迎へて、金坂グランドに於て競技を行つた。會川監督より其成績感想希望等に就いて原稿を寄せられたのであつたが〆切後で遺憾ながら割愛した

懸賞當選盆踊り歌詞

（昭和八年八月三十日發表）

一等　ヘットランプに鶴嘴持てば　炭礦じや自慢の伊達男
二等　踊る手と手が思はずもつれ　今じや磐城に新世帶
三等　爺父堀り出しや伜が運ぶ　坑外じや娘が選り分ける
妾しや選炭婦よ主堀る炭を　いとし心で選り分ける
染めた袢天磐城とぬいて　齡を包んで盆踊り
人情からめば高尾でさへも　島田くづして共稼ぎ

佳作

非常時日本と櫓の太鼓　響く磐城の盆踊り
櫓太鼓につひ誘はれて　顏をかくして盆踊り
好いたお方のとる音頭に　囃す踊り娘戀心
鶴を手にして早や十五年　磐城炭礦の名も戀し
男振りより働き振りに　惚れてくるぞえ花嫁御
發破響けば切端がのびる　太鼓響けば輪が伸びる
月も太鼓も踊りも丸い　炭礦の氣分も亦丸るい
月よ夜更けに音頭が冴えて　二人もつれる影法師
堀れて居るのに何故氣をもます　早く入れたい主の枠
きりやう姿に望みはないが　働らく笑顏に强い胸

綴採炭夫　松本孝平
高坂運炭婦　遠藤みよ子
第三運搬夫　須田一男
高坂賣店　高木力
製作　鈴木銀司
綴採炭夫　金誠治
第三運搬夫　及川幸之助
高坂運炭婦　羽田みさを
綴坑小使　高野作造
綴勞務　渡邊孝一
第三斜坑　折笠好彌
高坂雜夫　綠川清澄
會計課　富森健一
製作所　鈴木忠吾
綴大工　大倉米造
第三支柱夫　杉山清風

我國教育學界の權威

前京大總長小西重直博士

書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯臺國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打タレ申候云々。

矢野恒太
服部宇之吉　序　大内民惠　著

教育制度改革概論

（四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歷史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

發行所　日本評論社　東京丸ノ内昭和ビル

取次所　内鄉村報社

激減するのではないかと痛感されます。

私が昨年綴坑々内で勤務中當日は出炭デーで而もレコードを作ると云ふので終日現場に詰め一

博士達已が子供を赤くして警察沙汰で目だまさ

に努力し樣ではありませんか。

東京　角地藤太郎

らるゝ諸彥は勿論遠く極北新日本である樺太の石炭業に從事して居ります私如きも一樣に先人犧牲者諸君から直接間接に恩義を蒙つて居る次第であります。此度大内氏

對し何んとか弔靈の意を表はし一般從業員に想ひ思はせたい念願から布敎所（お寺）を設け墓地を撰定して毎年千圓盆に法要を營む事にして[illegible]ます。樺太には寺院は中

山の人々と法要を營む事に就き大内氏の御提案を想起し無性の禿筆を運びました。

窓外に百花千草を眺めながら一兩毎に肌の寒さを覺えつゝ

水泳部報（四）

第三斜坑　廣瀨六三

待ちに待つた日本礦山協會仙臺支部主催第一回常磐炭礦水上競技大會は愈々去る八月二十七日我が磐炭プールで擧行せられた。我磐炭選手は一日の仕事を終つてから大抵夜間に此數ヶ月間默々として練習に練習を重れ、その熱、正に發火点、されど第一回戰の事でもあれば其結果は全く混沌として豫斷と許されないが、その興味たるや實に津々として盡きませんでした。午後零時三十分、會長後藤仙臺鑛山監督局長、審判長監督局諸井鑛政課長、多田技師、菅原所長入山の吉田所長、大貫副所長、古河の矢野、安孫子兩氏等着席と共に次の順序により擧行されました

一、選手入場　二、國旗揚揚　三、會長訓示　四、審判長の注意　五、選手宣誓　六、競技開始　七、講評　八、賞狀授與　九、閉會。

當日の出場選手は總數七十余名觀衆三千余名。氣溫三十一度、水溫二十九度のコンデションでありました。競技結果は次の如くであります。

△二百米リレー

1、二分九秒四、磐城（小島、村上富岡、森）2、入山3、古河

△四百米自由形

1、六分三十九秒八、入山（小島武二）2入山（上田廣）3、古河（佐藤初太郎）

△百米背泳

1、一分三十秒三、磐城（富岡信吾）2、磐城（森七郎）3、古河（佐藤初太郎）

△百米平泳

1、磐城（加藤民雄）2、入山（阿久津經之）3、古河（安齊近義）

△百米自由形

1、一分十二秒八、入山（長津高男）2、磐城（富岡信吾）

△小學生四百米リレー（高）

1、五分三十秒五、内鄉2、入山3、好間

△二百米平泳

1、三分二十三秒三、入山（猪狩金三郎）2、磐城（星一二）3、磐城（加藤民雄）

△小學生二百米リレー（尋）

1、二分三十七秒二、入山、2、好間、3、内鄉

△三百米メードレ

1、四分三十秒三、磐城、2、入山

△千五百米自由形

1、二十五分五十二秒、磐城（富岡）2、入山（上田）3、入山（木田政雄）

△八百米リレー

1、入山、2、磐城

◇得点表

	河古	山入	城磐
泳形	1	3	5
泳泳	1	5	0
泳形	1	0	5
泳レー	0	2	3
櫂由	0	3	2
自背平	0	3	3
自由	0	3	5
百メードレ	0	5	3
百リレー	0	3	3
二百五十	4	27	29
四百百			
百百二			
百百三			
千八			

◇選手權

磐城五、入山四、古河〇、

而して此水上競技は對抗競泳ではなくて選手權獲得大會であつたのです。

幸ひ小島部長外選手諸君の猛烈なる努力と皆樣方の絶大なる應援により五つの選手權を獲得し、斷然他礦に拔きんじた事は我々委員として最喜ばしき次第です。

（余白なし、以下略す。）

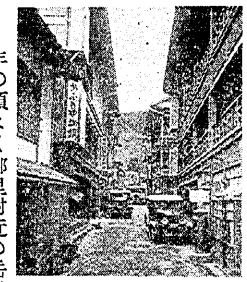
◎採炭夫募集

磐城炭礦

變裝入湯記 [一]

大内民惠

記者は過去の生涯に於て、隨分旅行はした方で、溫泉の如きも其序に出來る丈機會をつくつて一泊の入湯をする事にして居つたので、全國各地の溫泉をかなり多く知つて居る。されど其すべては一旅客として普通の待遇をうけ、勿論一人一室で、宿料茶代チップ等もそれ相當に拂ひ、同宿の人々等とは一通りの挨拶を交はす位の程度で、所謂民衆的湯治氣分に浸つて、呑氣に幾日かを暮すといふ樣な暇は、殆んど皆無であつたのである。



土湯の溫泉街

少年の頃よく郷里附近の岳溫泉に幾日かを送り、近在の農家商家の人々が、米味噌野菜などを脊負ひ込んで、所謂木賃制で客同志が親みつゝ、悠長な、しかも民衆的な湯治をして居る光景を、またとなく面白いものと思つて居つた事などを思ひ出し、自分も機會があつたらば、そうした氣分につかつて見たいといふ考を持つて居つたのは久しい事であつた。處が幸なるかな、去る八月の八九兩日は、飯坂に縣下共濟委員の大會があり、同十四日には川俣に用事があり、其間の數日間節宅して再び出直すは馬鹿々々しくもあるので此時こそと、年來の希望を果す爲に民衆的溫泉

土湯に入湯する事にしたのである。それで八月十日午後二時川俣郵便局長大野君宅に於て、夫人を煩はして、寫眞通りの變裝を了し、ひげは其豫定であつたのでのびたるまゝの無性顏、脊負ひたる縞の風呂敷には米二升をつゝみ六尺褌をしめ込み、紐付の布財布古い煙草入をたばさんだのであるかくて大野君夫妻の笑聲に送られて邸を出て、川俣驛より列車に乘り込む。見れば向ふ側に四十五六とも見ゆる、白衣黑袴切髪の婦人が腰をかけて居たので、何かか材料もがなと、一揖してお前さまあ何かぎようでもしんのかしと、恭しく伺ひを立つれば、御機嫌斜ならず、我意を得たりとばかりに、××神靈降神術交靈術遠隔療法といふ見出しで、本院長大教正××師の寫眞を入れ、いろ〳〵の効能を並べ、數十の療法科目を列記せる一枚の廣告を出して記者に與へ、自分の經歷から、××師によつて幾つかの難病を直していただき其靈驗あらたかなる處から、自らも其信仰に入り、今では其奥許しを得て、人樣の病氣もなほされる樣になり、相當の收入もあつて生活にも困らないといふ事を諄々と聞かしてくれ、最後に記者の樣子をしげ〳〵と見て居たが、あんたは賣藥の行商でもやつてゐるのかし、と來た。こゝに於て記者は幸先よし、さすがの神樣も我輩の變裝を觀破し能はざるかと、心窃かに喜び、イヽナニおらあハア磐城炭山の礦夫でがすといへば、そうですか、私の叔母も磐城に居るので、私も其内に行つて見やうと思ひます。私は何處へ行つても、すぐに大勢の病人が集つて來て、それが皆なほるので面白いですよといふ。記者はそうしたらおいらも長屋中に布令をまはして、みんなを集めてお願しますべいなどと相槌をうつて居るうちに、汽車は松川驛に着き、折から來合せて居た某旅館の番頭さんの手引きで、土湯行きの自動車に乘る。三日以上の滯在客は往復共無賃で運ぶといふ勉强ぶりである。他に乘客なく松川町に入つて二三人乘車する、内一人から何處から來たかと言葉をかけられたので、炭礦から來た事を話せば其人は小學校の教員なそうで、教科書中に炭礦の教材のある事から、一度は視察したいものだなどゝ言はるゝので、何時でも御案内するから來てられよ、今日宿に着いたらば處書きをあげるからなどゝ語りながら田圃や雜木山の新開道路三里半をゆられ〳〵て土湯村に着く、吾妻山の麓海拔四三五米、荒川烏川の合流する凹地に散在する百余戸の山村、内十三戸は溫泉旅館、他は商店農染炭燒等を渡世として居るとの事、今や浴客大入滿員七百人と稱す。河岸の最も目につく處の藝者の御用は××屋へといふ天下一品の立看版には驚かされた。但藝者はたつた二人とか。宿は例の番頭君のなにかし屋ときめる。米を帳場に渡して、通されたのが道路に面した三階の六疊間他にも相客があつて、小茶簞司火鉢鐵瓶炭取夜具等雜然たりだ。先づ汗を流すべく薄暗き浴室に飛び込む、略二坪の湯槽も流しもセメンのたゝきで、もとより飯坂のそれとは比較にならぬ。しかも

變裝したる記者

男女混浴には面喰はされた。相客は五十前後とも見ゆる、十二三の孫娘をつれた某郡某村のツイ氏、チャブ臺の上に某村特別戸數割調なる謄寫刷の一冊がのせてあつたので、之ある哉と、あなたはかうした方面に御關係ですかと問ひかくれば、如何にもと前村議であつた處から、現在はかうした事の調査委員である事以前に消防組頭であつて、大に鳴らしたしたものである事、本年に入つては債務調停委員に選任せられた事等を、古い名刺や辭令等を示して説明してくれ、農村の經濟狀態、負債狀況等を具さに話され父の死後感ずる處あつて絶對に禁酒し、組頭をもやめて我家本位に堅實呑氣に暮して居り、六百戸近くの村で、十一位かの戸數割を納めて居る事など、右の簿册で示してくれた。而してツイ氏等は幾合かの御飯を註文して、御持參の副食物で、余は半杯（一杯は二合五勺）の御飯と、さゝげと奴豆腐とをとつて夕飯をすます。宿帳には炭山礦夫と書いた。夜に入つて松川から同乘した先生の來訪をうけた。特に用意していつた鉛筆で、紙きれに住所氏名を書いて渡し、地下三千尺坑内の作業、現場員、先山、後山、運搬夫、軌道夫、支柱夫、雜夫の職分、坑外の選炭及移出の概況、社宅の狀況、勞務係の使命等を一々説明し、私の生れは茨城で放蕩の結果、親譲りの財産を全部つかひ果し、二十年前妻と一女二男を引きつれて、磐城炭礦に流れ込み、タガネをとり、セットを振つて相當働いたものであるが寄る年涙は爭はれず、殊に最近は機械掘りとなつたので、到底老体にはつとまらず、とう〳〵首になつたが、幸ひ婿は先山、娘は選炭婦、長男は後山、二男は雜夫、婆々アは飯焚きといふ工合に、一家駄目なく働いて居るので、社宅は三かまども借りて、どうがな暮して居る事、長年辛抱したおかげで、役員樣や一般從業員からも認められて、社宅の話役といふ、炭礦での名譽職もやつて居るから、皆樣が見物に來られる樣だつたら、坑内でも何處でも御案内するなどゝ誠しやかに説き立てれば、何れもなる程と聞いてくれる。かくて先生が歸られた後、ツイ氏は先年組頭會議の時、平迄は行つたつたが、炭礦は見なかつたので、折を見て行くからよろしく賴むなどゝ話され且つあなたは此處迄來て飯坂と福島を見ないでは惜しい事だ、わしが案内するから、

麥笛句集

昭和五年九月より同八年三月迄の麥笛吟社同人二十六氏、四百題一千五百句の句集で高木撫山氏主として之が編輯にあたりたるもので内容外觀共に見るべきものあり、斯道に裨益する處多大なるは勿論磐炭俳壇の一大紀念誌ともいふべきものである。（非賣品）

一巡りして行つてはどうかと、勸めてくれる。私も飯坂の有名な事福島は縣廳の所在地でもあるので一生に一度は見物したいと思つて居るが、何しろ其用意はしてないし、且つは若い者らにも濟まないから此次にしませうなどゝ話しながら眠りに就く。蒲團はツイ氏同樣上下二枚を借りる。當に二枚を敷いて居るので、一枚では聊か體が痛い樣な氣もするが、失業礦夫なるが故に特に我慢をする。

（以下次號）

内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村共濟事業の徹底を期す。
四、村内の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

こゝに我等は、上述せる皇大神宮の祭祀と、國家の祀祭日に就いて、謹て慮るに皇大神宮の大中小祭は、祖祭なる大祭日を制定し四大節に一節を加へて五大節として、全國之が協力せられん事を祈願する次第である。

因みに一言するが、明治初年に五節句を廢して、國民の撰定を望む）

天

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ぬるものなり。

毎月一回一日發行
本紙定價一部金五錢一ヶ年壱拾錢共金四十八錢
發行所　福島縣石城郡内郷村字宮下二
編輯發行兼印刷人　内郷村報社　右全所　振替仙臺八四二〇
印刷所　福島縣磐城郡平町一丁目二九　大内民惠
株式會社平活版所